

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

がん専門相談員の持続的な質の保証に関する研究

研究分担者	高山 智子	静岡社会健康医学大学院大学社会健康医学研究科
研究協力者	齋藤 弓子	国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部
研究分担者	近藤まゆみ	北里大学病院 看護部
研究協力者	品田 雄市	東京医科大学病院 八王子医療 センター総合相談・支援センター
研究協力者	清水奈緒美	湘南医療大学 保健医療学部 看護学科
研究協力者	小郷 祐子	国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部
研究協力者	高橋 朋子	国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部
研究分担者	八巻 知香子	国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部

研究要旨

【目的】本研究では、がん専門相談員（以下、相談員）が、相談対応力を維持・向上するために既存の研修や学会等への参加が有効であるかを検証し、今後の教育支援環境のあり方を検討することを目的とした。

【方法】相談員向け研修の受講登録者を対象に、2023年3～4月に匿名自記式のWeb調査の協力依頼を行い、相談支援活動の現任者409名を対象に分析を行った。調査内容には、相談員基礎研修の学習目標にも挙げられ、かつ、意識して対応することが重要と考えられる1) 心理的サポート、2) コミュニケーションスキル、3) 情報収集、4) 課題の共有、5) 科学的根拠およびヘルスリテラシーに基づく情報支援の対応の5領域16項目の設問を用意し、意識して相談対応しているかを「ほとんど意識していない（0点）」～「7-8割以上の対応で意識している（4点）」の5段階で尋ねた。全16項目と各領域の標準化得点を算出し、背景要因として、年齢、従事形態（専従/専任/兼任）、相談対応経験年数および月対応数、基礎研修他の受講状況、研修提供側（ファシリテータ）としての対応経験、都道府県内研修受講状況、1年以内の学会参加状況との関連を検討した。

【結果】全16項目の意識状況の得点は、 14.3 ± 1.9 （range:0-16）で、各領域の得点は高かった順に、情報収集、心理的サポート、コミュニケーション、情報共有、情報支援であった。また相談対応時の全16項目の意識状況の得点は、月あたりの相談対応件数、都道府県で開催される研修参加、1年以内の学会参加と有意な関連が見られ、それぞれ多い程、意識して相談対応しているという結果であった。

【考察】本検討では、各都道府県で行われている研修や学会への参加が、相談対応時の意識化に関連していることが示された。このようなすずである環境を活用し、組織として参加を促し支援していくことが、効果的な継続教育の提供につながると考えられた。一方で、相談対応に求められる知識やスキルは多様化しており、既存の場だけでカバーできない教育学習領域の対応もさらに検討することが重要である。

A. 研究目的

2022年8月に改定の「がん診療連携拠点病院等の整備について」では、個人の努力だけでなく組織として継続教育を受けられる体制を整備することが求められている。一方で、教育を提供する側も受ける側も、限られた時間や資源で対応する必要があり、既存の環境も含めて効果的な教育支援環境のあり方を探ることが重要である。本研究では、がん専門相談員（以下、相談員）が、相談対応力を維持・向上するために

既存の研修や学会等への参加が有効であるかを検証し、今後の教育支援環境のあり方を検討することを目的とした。

B. 研究方法

相談員向け研修の受講登録者を対象に、2023年3～4月に匿名自記式のWeb調査の協力依頼を行い、相談支援活動の現任者409名を対象に分析を行った。調査内容には、相談員基礎研修の学習目標にも挙げられ、

かつ、意識して対応することが重要と考えられる1) 心理的サポート、2) コミュニケーションスキル、3) 情報収集、4) 課題の共有、5) 科学的根拠およびヘルスリテラシーに基づく情報支援の対応の5領域16項目の設問を用意し、意識して相談対応しているかを「ほとんど意識していない(0点)」～「7-8割以上の対応で意識している(4点)」の5段階で尋ねた。全16項目と各領域の標準化得点を算出し、背景要因として、年齢、従事形態(専従/専任/兼任)、相談対応経験年数および月対応数のほか、基礎研修受講を含むその後の学習機会について、基礎研修他の受講状況、研修提供側(ファシリテータや講師)としての対応経験、都道府県内研修受講状況、1年以内の学会参加状況との関連を統計学的に検討した。

(倫理面への配慮)

本研究は、個人情報収集しないため研究倫理審査には申請しないが、国立がん研究センター研究倫理審査委員会より「審査不要(通知番号:6000-072)」の判断を得て実施した。また、対象者へは、本研究の目的・方法・倫理的配慮を記した説明文をよく読み、回答するよう依頼した。また、Web回答フォームは「協力に同意する」にチェックした者のみ回答できるよう設定した。

C. 研究結果

調査協力の同意が得られ、相談支援業務に現在従事する409名の背景属性について、表1に示した。相談対応時に重要とされる対応内容の意識の程度を図1に示した。7-8割以上で対応している割合が最も高かった上位3つは、10.言葉の選び方やタイミングなどを意識してコミュニケーションをとること(76.8%)、2.対話の中からがん患者さんやご家族の置かれた状況で起こりうる心理的な状態を想像・想定しながら、対応すること(73.1%)、6.心理的サポートを傾聴、受容しながら行うこと(72.9%)で、低かったのは、14.がん患者さんやご家族のヘルスリテラシーや理解の度合いに応じて、わかりやすい説明や情報提供をすること(情報支援の要素含む)(54.0%)、13.がん患者さんやご家族の判断に必要な情報を見極めること(情報支援の要素含む)(57.7%)、12.科学的根拠や相談員の実践に基づく信頼できる情報を提供すること(58.0%)であった。

相談対応時に重要とされる対応内容の意識の程度に関する全項目の合計および各5領域の合計得点の分布(表2)は、全16項目で、 14.3 ± 1.9 (range:0-1

6)で、高い順に、情報収集、心理的サポート、コミュニケーション、情報共有、情報支援となっていた。

相談対応時の全体および各意識状況と背景要因との関連をみると(表3)、全体では、月あたりの相談対応件数、都道府県で開催される研修参加、1年以内の学会参加と有意な関連が見られ、それぞれ多い程、意識して相談対応しているという結果であった。また領域ごとにみると、相談対応対応件数は、心理的サポートを除く4領域で関連がみられ、相談対応経験は、情報収集と情報共有と関連がみられた。県内研修受講状況は、情報収集、情報共有、情報支援と3領域と関連がみられ、過去1年間の学術集会等の参加状況は心理的サポートと情報支援に関連が見られた。

D. 考察

本検討では、各都道府県で行われている研修や学会への参加が、相談対応時の意識化に関連していることが示された。このようなすでにある環境を活用し、組織として参加を促し支援していくことが、効果的な継続教育の提供につながると考えられた。

一方で、相談対応に求められる知識やスキルは多様化しており、既存の場だけでカバーできない教育学習領域の対応もさらに検討することが重要である。また、とくに学術集会の参加については、約3割が過去1年間に参加しておらず、職務上も参加が難しい者もいるのではないかと推察される。参加しやすい機会をいかに工夫しつくっていくかも今後の課題となってくるであろう。

今回行った検討の限界点として、今回尋ねた相談対応に重要とされる内容について意識しているかどうかと実際にそれができているかは異なることや、研鑽を重ねることで“意識せずとも対応できる”ようになることがあげられる。そのため、今回得られた回答と相談対応の質保証に必ずしも結びついていない可能性がある点は否めない。今後は、身につけた相談対応の知識やスキルが実践で、実際に使えているかという視点での検討も必要であると考えられる。

E. 結論

限られた時間や資源の中で、新たに改定された整備指針上求められている組織としての継続教育の環境の提供について、現在国内で進められている取り組みを含めた環境から、そのあり方の検討を行った。今回の検討により、すでに都道府県内で行われている継続研修の機会に参加することや、学術団体が提供している機会が、日々行っている相談対応時の意

識化を促進させることが示唆された。すでにある学習機会への参加を促し支援することが、相談員に対する教育支援環境の提供の一助につながると考えられる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

高山智子, 齋藤弓子, 奥野順子, 花出正美, 高橋朋子, 小郷祐子, 若尾文彦. がん専門相談員の診療ガイドラインの利用状況と利用に及ぼす背景要因の検討. 医療の質・安全学会誌v18(4)399-413,2023.

2. 学会発表

高山智子、齋藤弓子、近藤まゆみ、品田雄市、清水奈緒美、小郷祐子、高橋朋子、八巻知香子. がん診療連携拠点病院の相談支援業務の整備指針の対応状況と院内外の支援に関する研究. 第61回学会学術集会(横浜).2023.10.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし

表1. 対象者の背景 (n=409)

	n	%
個人特性		
性別		
男性	40	9.8
女性	369	90.2
年代		
20代	23	5.6
30代	66	16.1
40代	167	40.8
50代	115	28.1
60代以上	38	9.3
施設背景		
病院種別		
がん専門病院	31	7.6
大学病院	90	22.0
総合病院	282	69.0
その他	6	1.5
拠点種別		
都道府県がん診療連携拠点病院（国立がん研究センター含む）	91	19.6
地域がん診療連携拠点病院（特定領域含む）	297	63.9
地域がん診療病院	21	4.5
従事/職種背景		
従事形態		
専従	200	48.9
専任	102	24.9
兼任	103	25.2
その他	4	1.0
がんの相談対応状況		
がん専門相談員としての経験年数 [平均±SD : 5.5±4.8 (range: 0-25)]		
～1年未満	35	8.6
1年以上～3年未満	94	23.0
3年以上～5年未満	91	22.3
5年以上～10年未満	96	23.5
10年以上	93	22.7
相談対応件数(月) [平均±SD : 50.0±57.5 (range:0-450)]		
0件	3	0.7
1～5件	37	9.1
5～10件	36	8.8
10～20件	55	13.5
20～40件	87	21.3
40～60件	63	15.4
60件以上	128	31.3
基礎研修の受講及びその後の学習機会		
がん専門相談員の研修受講状況		
研修受講なし～基礎1, 2まで修了	101	24.7
基礎3まで修了	134	32.8
基礎3まで修了+指導者研修、スキルアップ研修等受講	174	42.5
全国基礎研修(3)ファシリテータ経験		
なし	286	69.9
1回以上あり	43	10.5
回答なし	80	19.6
県内主催・提供の相談員向け研修会の参加		
なし	30	7.3
1回あり	27	6.6
2-3回あり	97	23.7
4回以上あり	175	42.8
回答なし	80	19.6
県内主催・提供の相談員向け研修会でのファシリテータや講師経験		
なし	203	49.6
1回以上あり	126	30.8
回答なし	80	19.6
過去1年間の学術集会等への参加状況		
なし	128	31.3
1回あり	77	18.8
2-3回あり	137	33.5
4回以上あり	67	16.4

図1. 相談対応時の意識の程度(n=409)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



表2. 相談対応時の意識状況(n=409)

項目	項目数	平均	±SD	range
心理的サポート	2	2.78	1.57	0 4
コミュニケーション	2	2.72	1.59	0 4
情報収集	3	2.79	1.53	0 4
情報共有	4	2.54	1.61	0 4
情報支援	5	2.34	1.55	0 4
16項目合計	16	14.29	1.87	0 16

表3. 相談対応時の全体および各意識状況と背景要因との関連

	全体 (16項目合計)		心理的サポート		コミュニケーション		情報収集		情報共有		情報支援	
	F 値	p-value	F 値	p-value	F 値	p-value	F 値	p-value	F 値	p-value	F 値	p-value
性別	1.45	0.2295	0.64	0.4228	0.33	0.5646	0.89	0.3460	0.01	0.9383	1.70	0.1928
年代	1.58	0.1804	1.50	0.2028	0.69	0.6024	1.21	0.3045	1.36	0.2470	0.66	0.6222
従事形態	0.03	0.9744	1.17	0.3104	1.03	0.3595	0.08	0.9196	0.08	0.9201	0.41	0.6654
相談対応経験年数	1.93	0.1057	0.48	0.7519	1.29	0.2758	2.79	0.0266	3.30	0.0115	2.39	0.0509
相談対応件数	8.81	0.0032	0.45	0.5017	5.53	0.0193	5.72	0.0173	8.69	0.0034	8.00	0.0050
相談員基礎研修受講状況	1.02	0.3604	1.41	0.2466	0.93	0.3957	0.31	0.7360	1.73	0.1788	0.88	0.4157
研修提供：ファシリテータや講師経験（全国）	0.03	0.8545	0.18	0.6759	0.11	0.7418	0.82	0.3647	0.19	0.6646	0.08	0.7748
県内研修受講状況	4.33	0.0052	1.23	0.2998	2.23	0.0852	5.13	0.0018	4.23	0.0059	7.07	0.0001
研修提供：ファシリテータや講師経験（県内）	0.10	0.7478	0.00	0.9795	0.54	0.4642	0.07	0.7890	0.25	0.6143	0.05	0.8229
過去1年間の学術集会等の参加状況	3.21	0.0233	2.88	0.0364	2.26	0.0812	2.42	0.0665	2.56	0.0551	4.37	0.0050
モデル全体	3.36	<.0001	1.67	0.0322	1.93	0.0083	2.92	<.0001	2.98	<.0001	3.54	<.0001
R2 乗	0.195		0.107		0.122		0.174		0.176		0.203	